

第 256 回大阪海区漁業調整委員会議事録

| | |
|---------------------------|--|
| 1. 開催日時 | 令和6年(2024年)3月1日(金曜日)午後3時開始 |
| 2. 場 所 | 大阪府咲洲庁舎 23 階 海区委員会室 |
| 3. 出席委員 | 今井 一郎、岡 修、奥 浩幸、津本 芳孝、常松 睦弘、 田中 映治、樋口 正明、多田 稔、 村上 知子(オンライン)、鍋島 靖信(専門委員) |
| 4. 府関係者 | 池田 孝雄、新瀬 幾恵、島 竜希、 佐野 雅基(水産技術センター)、 大美 博昭(水産技術センター) |
| 5. 事務局 | 大道 斉、久保 佳洋、池田 栄太郎 |
| 6. 議事事項 | 漁業許可の公示 |
| 7. 議事概要 事務局 (大道書記長) | <p>定刻となりましたので、ただ今から第 256 回大阪海区漁業調整委員会の開催をお願いしたいと思います。</p> <p>本日は、オンライン出席の村上委員を含め、委員 9 名に出席いただいておりますので、漁業法第 145 条に基づき、本日の委員会が有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは、本日ご審議いただきます議題は、お手元の次第にありますとおり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漁業許可の公示」 <p>の 1 件でございます。</p> <p>それでは、今井会長、議事の進行、よろしくお願いいたします。</p> |
| 今井会長 | <p>只今から、第 256 回大阪海区漁業調整委員会を開催いたします。</p> <p>はじめに、議事に入る前に、議事録署名人を、大阪海区漁業調整委員会規程第 9 条第 2 項の規定に基づき私から指名させていただきます。</p> <p>議事録署名人につきましては、岡会長職務代理と津本委員にお願いします。</p> <p>それでは、議事に入ります。議題、「漁業許可の公示」について、水産課から説明をお願いします。</p> |
| 水産課 (島技師) | <p>大阪府水産課の島でございます。よろしくお願いいたします。漁業許可の公示に関して、諮問させていただきます。</p> |

まず、お手元の黄色いファイル「法令集」をご準備ください。右端のインデックスの上から5つ目の大阪府漁業調整規則をお開きください。2ページ目の下部の第11条が根拠条文となります。

本条第1項では、知事は、漁業の新規許可をしようとするときは、同条第1項各号に掲げる事項に関する制限措置を定め、その内容及び申請すべき期間を公示しなければならないと定められております。

また、次ページにあります、同条第3項により、制限措置の内容及び申請すべき期間を定めようとするときは、海区漁業調整委員会の意見を聴かななければならないと定められており、以上が今回の諮問の根拠となります。

それでは、参考資料1-1をご確認ください。諮問文のとおり、前回の委員会以降の新規要望について、諮問させていただきます。

1枚めくっていただいて、海区委員会資料1をご覧ください。表にあります通り、たこつぼ3件、ひきなわ漁業1件、あなごかご漁業1件、いかかご漁業31件、小型定置網漁業1件について、新規許可の要望が出ております。

このうち、いかかご漁業については31件と多いですが、これは、いかかご漁業については、令和5年7月31日に大阪府漁業調整規則を一部改正し、対人許可漁業を対船漁業許可に改めた後、今回が初めての斉更新となるためです。今回の斉更新により、今後は全ての許可請け者について、いかかご漁業許可を対船漁業許可として取り扱うこととなります。

また、小型定置網漁業についても同様に、現行の対人許可漁業の有効期間満了に伴う斉更新となります。本許可の操業区域は許認可方針のとおり、参考資料1-2の海図のとおりとなります。

申請すべき期間については、許認可方針通り2ヶ月間としております。

なお、漁協からの新規要望の内訳については、参考資料1-3に掲載しております。

説明については以上です。

今井会長

ありがとうございます。

ただ今の水産課の説明について、何かご意見・ご質問はございま

| | |
|-------------------------|--|
| | すでしょうか。 |
| 各委員 | (質疑等なし) |
| 今井会長 | 特にご質問等が無いようですので、議題については、水産課の案のとおり承認することとしてよろしいでしょうか。 |
| 各委員 | (異議なし) |
| 今井会長 | ありがとうございます。 それでは、水産課の案のとおり承認することとします。 事務局から答申案をお願いします。 |
| 事務局 (大道書記長) | (答申案読み上げ) |
| 今井会長 | ただ今の答申案について、何かございませんでしょうか。 |
| 各委員 | (異議なし) |
| 今井会長 | ご異議がないようですので、事務局で答申の手続きをお願いします。 それでは、以上で議題を終えます。 続いて、その他報告事項が1件あります。内容は、「大阪府における2024年漁期のイカナゴ調査結果について」です。水産技術センターから報告をお願いします。 |
| 水産技術 センター (大美 GL) | 水産技術センターの大美です。 本日は、「大阪府における2024年漁期のイカナゴ調査結果」について報告させていただきます。 皆様、新聞でご存知の方もいらっしゃると思いますが、本年、資源管理が始まって以来、大阪湾では自主休業を選択、一番厳しい方策を取ることになりましたので、それにつきまして私どもの調査結果がどういったものであったか、ご紹介いたします。 |

まず、大阪湾のイカナゴの一生について、模式図を示しています。大阪湾で獲れるイカナゴの産卵期は12月下旬から1月上旬です。主な産卵場は播磨灘北東部の鹿ノ瀬です。

産まれた稚魚は明石海峡を通過して大阪湾に流れ込んで来て、大阪湾で漁獲されます。大阪湾で沖の背などに親魚が仮眠していることは、兵庫県の調査で分かっているものの、圧倒的に産卵場の広さ等を考慮すると、大阪湾で漁獲されるイカナゴの産卵場は鹿ノ瀬になってくると思います。

1月から4月あたりに大阪湾に流れ込んで来たイカナゴはそのまま成長して、大部分は明石海峡を通過して、鹿ノ瀬や播磨灘に帰っていくという生活史を辿っています。

2月下旬から3月が大阪湾での漁期でして、大きさは4cm前後を狙って漁が始まります。漁が終わって、播磨灘の北部に戻ったイカナゴは、7月から12月の半年間、海底の砂の中で餌も食べずにじっとしています。これは、もともとイカナゴが冷たい海にいる魚でして、高温時期を避けて過ごすために、砂の中に潜る性質があります。

次に、農林統計や水産技術センターが入札場からデータをいただいて作成した、大阪府におけるイカナゴ漁獲量の推移です。横軸が年、縦軸が漁獲量を示しています。1990年代は大阪府でも漁獲量が1,000トンを超えていましたが、2000年代に入りますと、増減が激しくなりました。近年では100トンに満たない年が続いています。

最低値は2020年の8トンです。これにつきましては、もともと漁期が2月下旬から5月でしたが、不漁年は水産技術センターからできるだけ早く網を揚げてくださいとアナウンスしていたこともあり、漁自体が2日とか3日とかで終わるという状況でした。これを見ますと、やはり資源が減ってしまっていることが分かります。

続いて、大阪湾における毎年のイカナゴ漁解禁までの流れです。1月から2月上旬にかけて、イカナゴが産卵を終えたであろう時期から、水産技術センターが兵庫県と協力して、イカナゴ仔魚分布調査を行います。

その結果をもちまして、2月上旬に漁協予報を発表します。その後、大阪・兵庫の漁業者による検討会議に参加しまして、試験操業

の日程を決めます。

私たちの調査だけでは正確な大きさや漁的な感覚は分かりませんので、直前に試験びきを行い、確かめるという流れです。試験びきを行った日に、大阪府と兵庫県の漁業者で解禁日や操業時間を決定します。だいたい、2月下旬から3月上旬に、イカナゴ漁を解禁されます。

本日は、私たちの調査結果について説明します。

イカナゴ仔魚の調査ということで、私たちの調査船にボンゴネットを用いてイカナゴ仔魚を大阪湾で採取して、環境条件なども測定します。また、兵庫県の水産技術センターで鹿ノ瀬にいる親魚の量や産卵時期を調査しています。それらの結果を踏まえて、漁況予報を行っています。

漁況予報では、資源量が多いのか少ないのか、解禁時期における大きさがどれくらいなのか予測して予報しています。

まず環境条件については、水温と季節風を確認しています。

水温については、イカナゴの成長や生き残りに関係していると言われています。昨年12月から1月中旬までは、平年並みあるいは高めで推移しています。黒い太い線が今年、点線が平年値を示しています。12月中旬までは水温がなかなか下がりませんでした。12月の水温の低下は、イカナゴの産卵時期等に影響するようです。なので、水温がなかなか下がらなかったことで、イカナゴの産卵も始まらなかったと予想されます。

年が変わっても平年よりも水温が下がらなかった。水温が高いと、成長が少し早いといった影響があったのかと。水温が低い時の方が高い時よりも漁獲量が多いという指摘もありますので、大阪湾への仔魚の加入にはやや不向きな環境ではあったのかなと。

また、季節風については、冬場、西風成分が強くなりますが、播磨灘で産まれて明石海峡を越えて大阪湾に入ってくるので、季節風が強くと、播磨灘から大阪湾への流入が強くなるということが指摘されているので、モニタリングしています。

こちらが季節風のグラフで、真ん中の線が平年値、これよりも上の場合は季節風が強かったということです。実線を見ていただくと、1月下旬を除いて、季節風は強く吹きませんでした。

水温、季節風の観点からは、大阪湾への仔魚の加入はやや不適な

環境であったのではと考えられます。

次に、親の量ですね。播磨灘・鹿ノ瀬海域における親魚密度と産卵量について、毎年、兵庫県水産技術センターが調査し、公表しています。こちらのグラフ、横軸が親魚の大きさで、縦軸が個体数を示しています。昨年と今年を比較していただきますと、昨年に比べると、親魚の数は半分になりました。

それをまとめたものがこちらの表です。イカナゴの親には、産まれてから1年の小さな親と、2年以上の大きな親があります。不漁が続いていた年は、2年以上の大きな親が出てこなかった。なんとか漁師さんをお願いして、漁期を短くしてもらおうようにして、大きな親を増やしていきましようということで、ここ近年ようやく、大きな親も出てくるような感じになったものの、今年は数が半減してしまった。親の結果をもとに、産卵量指数が求められています。

大きさにより抱卵量が異なり、1962年を1として、各年との比較で目安を出しています。昨年は0.38で、これは1962年の38%の産卵数という数値で、今年は昨年より親が半分に減ったので0.17でした。最低値ではないが、過去2番目に低い数値です。

産卵時期は昨年と同時期で、産卵期間が長かったとのこと。昨年12月は水温の降下が緩く、イカナゴもだらだらと産卵しました。大阪府の水産センターの稚魚調査では1月中旬、下旬、2月上旬に調査を行いました。1月中旬に関空から明石海峡の間で獲れ、ここで稚魚が獲れるということは、播磨灘から稚魚が入ってきたことを示します。2回目は数が少ないが全域で獲れました。3回目はボンゴネットに入らない大きいものもいたが、それにしても採集数が少なかった。採集数は昨年より減りました。

稚魚の大きさについても、中旬には平均は変わらないが、組成の裾が長くなっていて、だらだら産卵したことを示しています。1月下旬に数が少なく、昨年より小さめになっています。昨年より大きめのものもいたようです。漁況予報では新子の資源量は親の数が少ないことから、資源量も非常に少ない。2022年の8トンの時と似ています。水温も高めで昨年より大きい。漁業者には親魚を最大限残すようにしてほしいと要望しました。2月22日に試験びきを行い、大阪府、兵庫県の合同会議が開かれました。試験調査の漁獲量も少なく、この結果を持ち寄って会議をし、大阪湾は休漁としたが、播

| | |
|---------------|--|
| | <p>磨との調整がならず、26日に再度集まり決定した。播磨は3月9日に出漁し、今後の予定を決めることになりました。</p> |
| <p>今井会長</p> | <p>ただ今の水産技術センターの発表についてご意見、質問ありますか。</p> |
| <p>鍋島専門委員</p> | <p>昨年は史上最高気温を記録し、大阪湾の水温も高く、イカナゴの親が夏眠中にへい死するなどの悪影響がみられませんでしたか。</p> |
| <p>大美 GL</p> | <p>直接、親の夏眠中の調査はしていませんが、備讃瀬戸では瀬戸内海東部は鹿の瀬と、香川県海域にも産卵場があり、ここでは海水の上下混合が大きく、気温が高いと底層まで影響が及び、今年は親もの採集数も最低値で、子供も獲れない状況でした。それに比べると、播磨灘海域は上下混合がそれほど大きくないので、兵庫県と情報交換を進めて検討していきたいと思います。</p> |
| <p>今井会長</p> | <p>鹿の瀬の夏眠場に貧酸素水塊の影響はないですか。</p> <p>鹿の瀬あたりは底びき網でカレイなどをとっていないですか。寝ているイカナゴが底びき網で起こされて、ぼうーと砂から出ると、魚に食われて親が減ってしまわないか心配です。真剣に考えないとね。</p> <p>兵庫の西川さんなどは動物プランクトンの調査をしていますが、大阪府も親の動物プランクトンを調べていますか。</p> |
| <p>大美 GL</p> | <p>鹿の瀬は貧酸素水塊の影響は大きくありません。底も荒い砂で海水流動の良い場所なので。イカナゴの会議でも産卵場での底びき網を止められないかという話は出ていました。兵庫県のことはよく分かりません。底引き網が操業していると思いますが、過去程多くはないと思います。</p> <p>動物プランクトンについては、大阪湾東部は公共用水域の調査でも動物プランクトンの調査がされていますし、水技センターでも行って、生息域の研究などを行っています。</p> |
| <p>今井会長</p> | <p>自分たちの冬の大切な資源なので、底引き網の操業の影響も考え</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>ないとダメですね。エサの動物プランクトンについても、兵庫県がデータを採っているので比較して検討するのもよいかと思います。</p> |
| 田中委員 | <p>大阪湾では底びき網が減ってきているが、播磨灘では増えていますか。水温が上がってカタボシイワシがたくさん獲れたりしています。資源の減少には水温上昇の影響が一番大きいように思います。</p> |
| 大美 GL | <p>大阪湾でも底びき網の数は減ってきています。過去に比べると兵庫県でも減っていると思います。兵庫の状況はよく分かりません。</p> <p>親から生まれた子供が育って卵を産んで、それが育ってくれる。そこにはエサの動物プランクトンも影響してくるので、水温や栄養分、餌が重要です。</p> <p>イカナゴでは親をとり残してもらって、次につなげることをしています。今年、初めて休漁をしてもらったので、この効果を見ていきたいと思います。</p> |
| 奥 委員 | <p>効果といっても、資源が底にあるので、1年ではなく、ある程度の期間見ていかないとダメですね。</p> <p>播磨が初めて相談に来たので、資源の管理では良い方向に行っているかもしれない。</p> |
| 岡 委員 | <p>親の粗いイカナゴ（ヒネ）を獲りに行っているのであかんで。伊勢湾は獲ってないのに全く回復しない。</p> |
| 大美 GL | <p>大阪湾では親を残せば子が出てきているので。</p> |
| 奥 委員 | <p>伊勢湾と瀬戸内とは違う。備讃瀬戸はかなり状況が違って、香川の漁獲ゼロがみんなの危機感をあおっている。</p> |
| 田中委員 | <p>栄養塩も含めて、シラスの卵があってもしらすが出てこないということがある。</p> |
| 今井会長 | <p>植物プランクトンがないと動物プランクトンが出てこないの、海底耕耘で泥のリンと窒素を水中に出して、珪藻を発生させる必要</p> |

| | |
|-------|--|
| | がある。 |
| 岡 委員 | 今年のシラスはどうか。 |
| 大美 GL | シラスは良くない予想です。ここ数年黒潮が大蛇行してからは、4月、5月は漁獲が悪い。外の資源が悪いので、入ってくる状況にはない。 |
| 今井会長 | 蛇行している方が良いのか。 |
| 大美 GL | 黒潮は潮岬に近い方が入りやすいです。大阪湾内でどれくらい産卵するか、5月下旬に入ってくるものが卵を産んでくれると良いのですが。卵は15度くらいから生み始めます。 |
| 田中委員 | 水温が上がっているから、半月くらい早いのでは。 |
| 岡 委員 | 今年も暖冬やさかい。 |
| 大美 GL | 水温15℃は、大阪湾では5月のゴールデンウィークあたりからです。去年は4月に数も少なかった。 |
| 奥 委員 | 4月下旬に1回出る。 |
| 岡 委員 | 北部は5月からかな。 |
| 常松委員 | 港の中の水がここ数週間、めちゃくちゃキレイなのはなぜか。 |
| 今井会長 | いつですか。 |
| 常松委員 | 今ですよ。 |
| 今井会長 | あまり、きれいになると、いけないですね。きれいだと有毒プランクトンが湧いてしまう。 |

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>水産技術 センター (佐野部長)</p> | <p>谷川の水温と塩分が高くなっているの、外からの海水が影響しているかと思ひます。雨が降ったので、珪藻が湧かないかと思ひてひます。</p> |
| <p>今井会長</p> | <p>堺沖、岸和田沖で海底耕耘をしてもらっているの、珪藻が湧いてきてくれると良いですね。</p> |
| <p>佐野部長</p> | <p>20 地点中のうち5か所で、カキから基準値以下の4が出た。20 地点から調べて数地点出ているが、今年は基準値以上に出てない。</p> |
| <p>今井会長</p> | <p>そうならんように 20 日ごとに耕耘をもらっている。海が荒れたなどで、きっちりとはできていないですが。他のご意見等はありませんか。</p> |
| <p>各委員</p> | <p>(異議なし)</p> |
| <p>今井会長</p> | <p>ご異議がないようでするので、全ての議題を終えましたが、他に、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。</p> |
| <p>事務局 (大道書記長)</p> | <p>次回の開催日については、3月26日(火曜日)15時からさせていただきます。</p> |
| <p>今井会長</p> | <p>ありがとうございます。 本日の委員会の議事等は、これですべて終了しました。 これをもって本日の委員会を閉会させていただきます。 本日はお疲れ様でした。</p> |